



今週の T2 経済レポート

2021年5月28日号

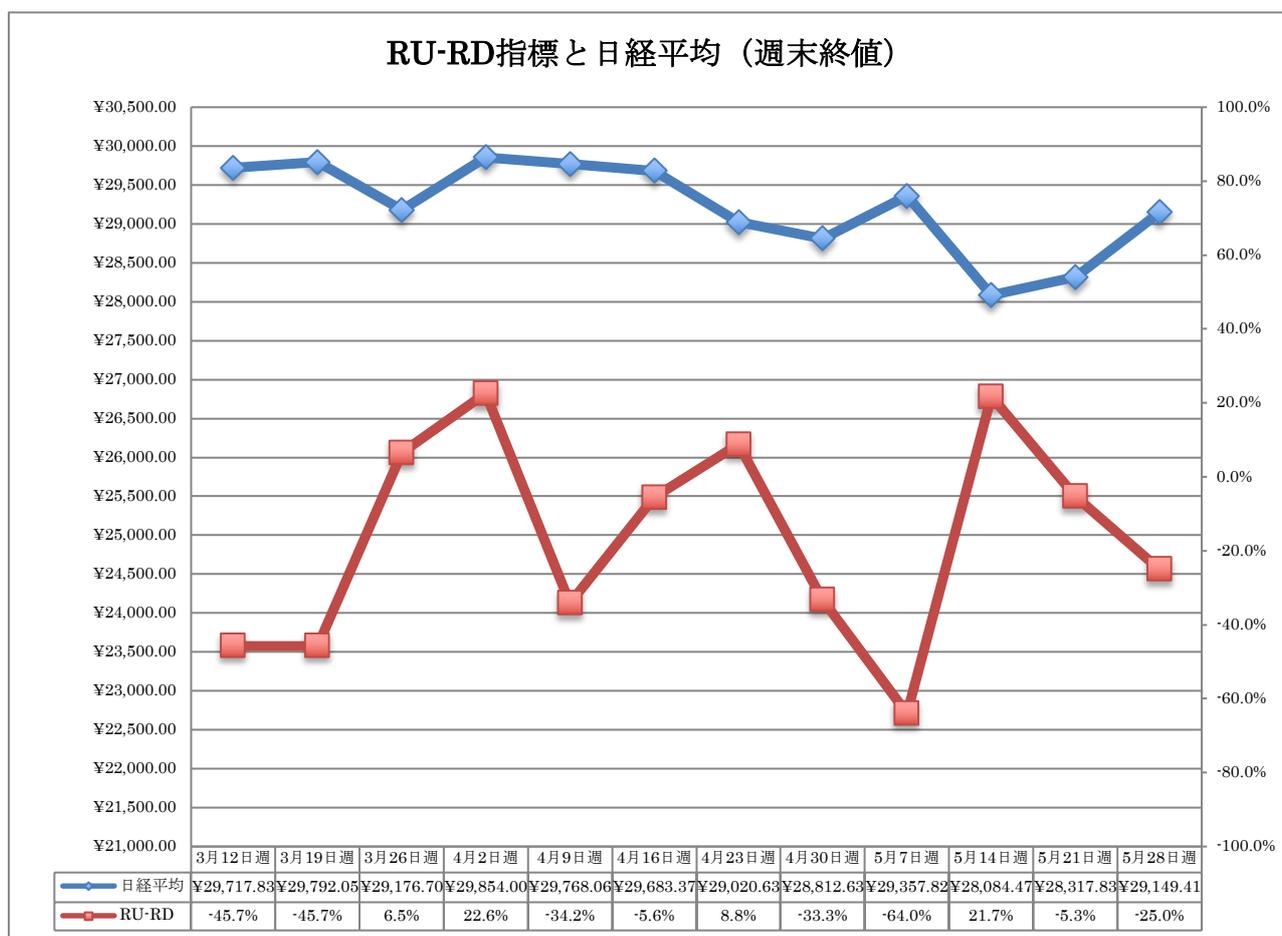
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は本来は軟調相場ですが、ここ数週間のような「1 週ズレ」が継続しているようですと今週は急落調整の週となるため注意が必要です。今週(5/24~5/28)の相場を占う『RU-RD 指標』の5月14日週が-25.0%と2週連続マイナス圏に陥っていることから本来は軟調相場ですが、ここ数週間のような「1 週ズレ」が継続しているようですと今週は急落調整の週となるため注意が必要です。さらに、来週(5/31~6/4)の相場を占う5月21日週が-4.8%と3週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続しそうです。ちなみに、3週連続マイナス圏に陥ったのは、昨年10月12日週~10月26日週以来で、この3週連続マイナス圏の後、日経平均は今年2月16日30714円まで30年半振りの高値まで急上昇しました。そして、その日経平均と連動して急騰したのが何度も指摘してきたように仮想通貨の代表である「ビットコイン」でしたが、その「ビットコイン」も4月13日最高値63659ドルから5月23日安値31192ドルまで1ヶ月で-51%の大暴落となっています。これはこのレポートで何度も指摘してきたように「株式市場の先行きを暗示する大きな転換点を迎えている」こととなります。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が3月5日週+31.4%→3月12日週+30.0%→3月19日週+47.1%→3月26日週+38.6%→4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%→4月16日週+21.4%→4月23日週+4.3%→4月30日週+2.9%→5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%と、先週5月14日週、昨年8月3日週以来、40週間振りにマイナス圏に陥り、「大きな相場の転換点を示唆したかたち」と指摘しましたが、今週も2週連続マイナス圏に陥っています。先週から『上昇相場はここで一旦終了し、これからは株価が上昇してもリバウンドの域を出ず、むしろ株価がいつ底となるのかに注意が必要な時間帯に入ることとなります。』と指摘しましたが、それがより明確になったかたちです。

今週は、経済指標では、国内は、26日に企業サービス価格指数、28日に4月失業率・4月有効求人倍率、一方海外で、25日に米3月FHFA住宅価格指数、米5月消費者信頼感指数、米4月新

築住宅販売、27日に米1-3月期GDP改定値、米4月耐久財受注、週次新規失業保険申請件数、28日に米4月個人所得・個人消費支出などが予定されています。25日発表の米5月消費者信頼感指数は120.0と、新型コロナウイルスのパンデミック直前の昨年2月以来の高水準だった4月の121.7を若干下回る見通しですが水準自体は高い水準を維持する見込み。また、27日発表の米1-3月期国内総生産(GDP)改定値は、巨額の財政出動と新型コロナウイルスのワクチン普及を背景に個人消費の伸びが加速した速報値の前期比年率+6.4%を維持できるか注目されますが、速報値と同水準となる可能性が高そうです。このほかのイベント・トピックスとしては、24日に米・ブレイナードFRB(連邦準備制度理事会)理事が講演行われ注目されます。」とコメントしました。



5月7日週	5月14日週	5月21日週	5月28日週
¥29,357.82	¥28,084.47	¥28,317.83	¥29,149.41
-64.0%	21.7%	-5.3%	-25.0%

先週の日経平均は、高値 29194 円 (5月28日)・安値 28212 円 (5月24日)と推移、2週連続の前半安・後半高の強いかたち。先週は、インフレ懸念が後退し米長期金利が安定、暗号資産(仮想通貨)ビットコイン価格も落ち着きを取り戻していたことから反発、週末には月足陽線(5月始値

29024 円)を意識したような不自然な先物による買い上げがあり上値目標値を超え、週間ベースで+832 円高と大幅反発で、5 月 11 日以来の 29000 円を台回復して終了しています(先週予告していた上値メド 28401 円~28969 円(+2%かい離)//下値メド 27058 円~26516 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、5 月 14 日に 28000 円大台替えで仕切り直しが入り、24 日に 28500 円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 10 日間、28 日に 29000 円大台替えでカウントダウン継続に 4 日間、従って、6 月 1 日までに 29500 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、28500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、4 月 21 日に 29000 円大台割れで下落スタートとなり、5 月 13 日に 28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 22 日間、従って、6 月 4 日までに 27000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に、5 月 28 日に 29000 円大台替えで仕切り直しが入りました。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、4 月に 29000 円大台割れで下落スタート、5 月に 28000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 1 ヶ月、従って、6 月までに 27000 円大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、逆に、5 月に 29000 円大台替えで仕切り直しが入ります。30000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、28000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑となり、短中長期すべてが強含みとなり、上昇しやすいかたちに変化しました。ただ、この不自然な急騰は日経平均 3 ヶ月月足連続陰線を避けるための株価操作である可能性があります。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 34631 ドル(5 月 28 日)・安値 34253 ドル(5 月 24 日)と推移、2 週連続の前半安・後半高の強いかたち。先週は、米連邦準備制度理事会(FRB)のクラリダ副議長が「今後数回の会合で資産購入ペースの縮小について議論を開始できる状況になるだろう」との見方を伝え、2022 会計年度における米連邦政府の歳出額が 6 兆ドル規模になり米長期金利の上昇が懸念されるなか、米連邦準備理事会(FRB)が最も重視する PCE コアデフレーター(4 月)は前年同月比 3.1%上昇し、市場予想(+2.9%)を上回ったものの長期金利はむしろ低下、ビットコイン価格も徐々にだが落ち着いてきたことから上値目標値を達成、週間ベースでは+322 ドル高と 3 週間振りに反発して終了しています(先週予告していた上値メド 34602 ドル~35294 ドル(+2%かい離)//下値メド 33327 ドル~32660 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、5 月 20 日に 34000 ドル大台替えで仕切り直しが入り、25 日に 34500 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 5 日間、従って、30 日(日曜日、かつ 31 日がメモリアルデー休場のため 6 月 1 日)までに 35000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、34000 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、5 月 12 日に 34000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。33000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、35000 ドル大台替えで仕切り直しが入ります。長期の方向を示す月ベースでは、5 月に 34000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。33000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、35000 ドル大台

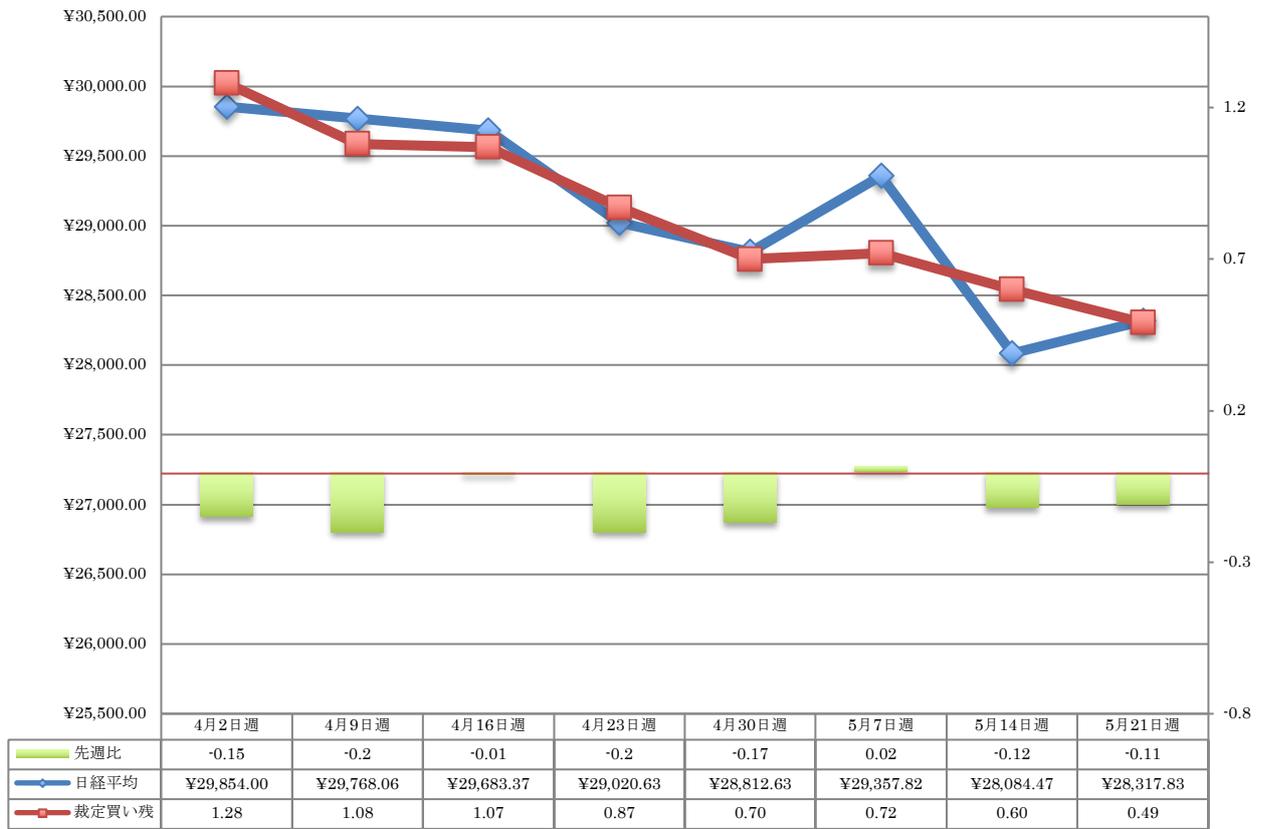
替えで仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期↓、長期↓、となり、中長期の弱含みは変わりませんが、短期が強含みとなって逆方向となったことで乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 110.19 円～108.55 円(先週予告していた上値メド 109.76 円～110.85 円(+1%かい離)//下値メド 108.48 円～107.39 円(-1%かい離))と推移、上値目標値を達成し、実質 4 週連続の円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.2266～1.2131(先週予告していた上値メド 1.2279～1.2301(+1%かい離)//下値メド 1.2122～1.2000(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週となりましたが、実質 3 週間振りにドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、134.05 円～132.47 円(先週予告していた上値メド 133.88 円～135.21 円(+1%かい離)//下値メド 132.62 円～131.29 円(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成する乱高下の激しい週となりましたが、実質 5 週連続の円安・ユーロ高。前の週のユーロ>ドル>円からドル>ユーロ>円に変化しましたが、円安は実質 4 週連続で継続したかたちです。日本の景気総括判断の下方修正や緊急事態宣言の再延長要請の動きなどでユーロ買い・円売りが活発、またバネッタ欧州中央銀行(ECB)理事やビルロワドガロー仏中銀総裁らが債券購入額縮小に否定的な見解を示したこと一方、米連邦準備制度理事会(FRB)のクラリダ副議長やクオールズ副議長が量的緩和策の段階的な縮小に言及したことからユーロ売り・米ドル買いが強まったかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

6 週間振りに増加後、再び 2 週連続で減少しています。3 月 1 日週は 15 年 11 月 16 日週以来の 5000 億円超の増加、次週 3 月 8 日週は 16 年 1 月 4 日週以来の 7000 億円超の減少、更に次の週 3 月 15 日週は 4600 億円増、3 月 22 日週は約 2700 億円増、3 月 29 日週は 1530 億円減少、4 月 5 日週は 1987 億円と、6 週連続で 1500 億円～約 7000 億円の巨額の増減を繰り返す異常な現象が続きました。このように巨額な増減を繰り返しても相場が乱高下しなかったのは「ブロック取引」が行われているためですが、ファンドか、ヘッジファンドの精算に伴う処理が行われていた可能性があります。5 月 14 日週の急落をみると、「ブロック取引」も出来なくなってきたことが伺えます。一方、「裁定売り残」は、前の週比-579 億円の 8989 億円と 2 週連続で減少。昨年コロナショック以前の 20 年 2 月 17 日週以来となる 8000 億円台まで縮小し、そろそろ買い戻しに一巡感が出ています。「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

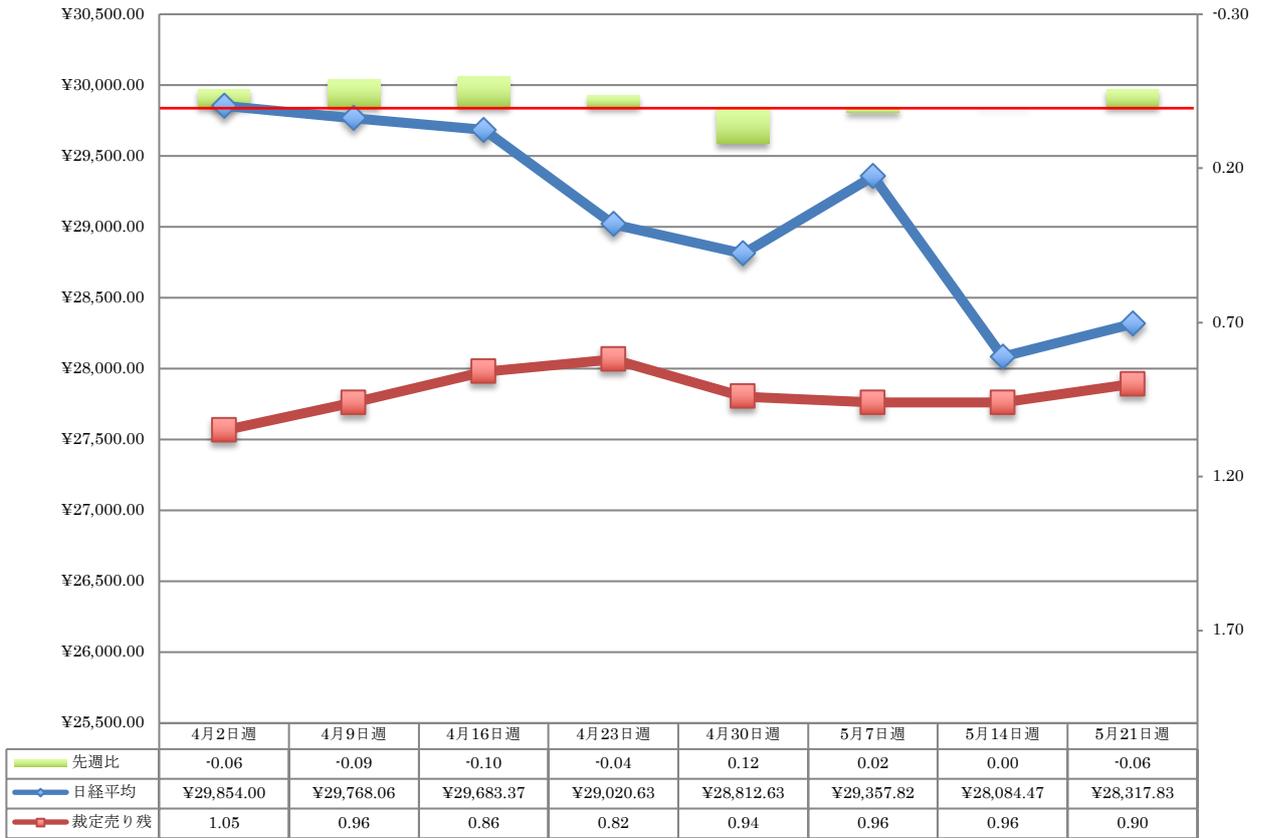
裁定買い残と先週比



4月30日週	5月7日週	5月14日週	5月21日週
¥28,812.63	¥29,357.82	¥28,084.47	¥28,317.83
0.7	0.72	0.6	0.49
-0.17	0.02	-0.12	-0.11

単位:兆円

裁定売り残と先週比



4月30日週	5月7日週	5月14日週	5月21日週
¥28,812.63	¥29,357.82	¥28,084.47	¥28,317.83
0.94	0.96	0.96	0.90
0.12	0.02	0.00	-0.06

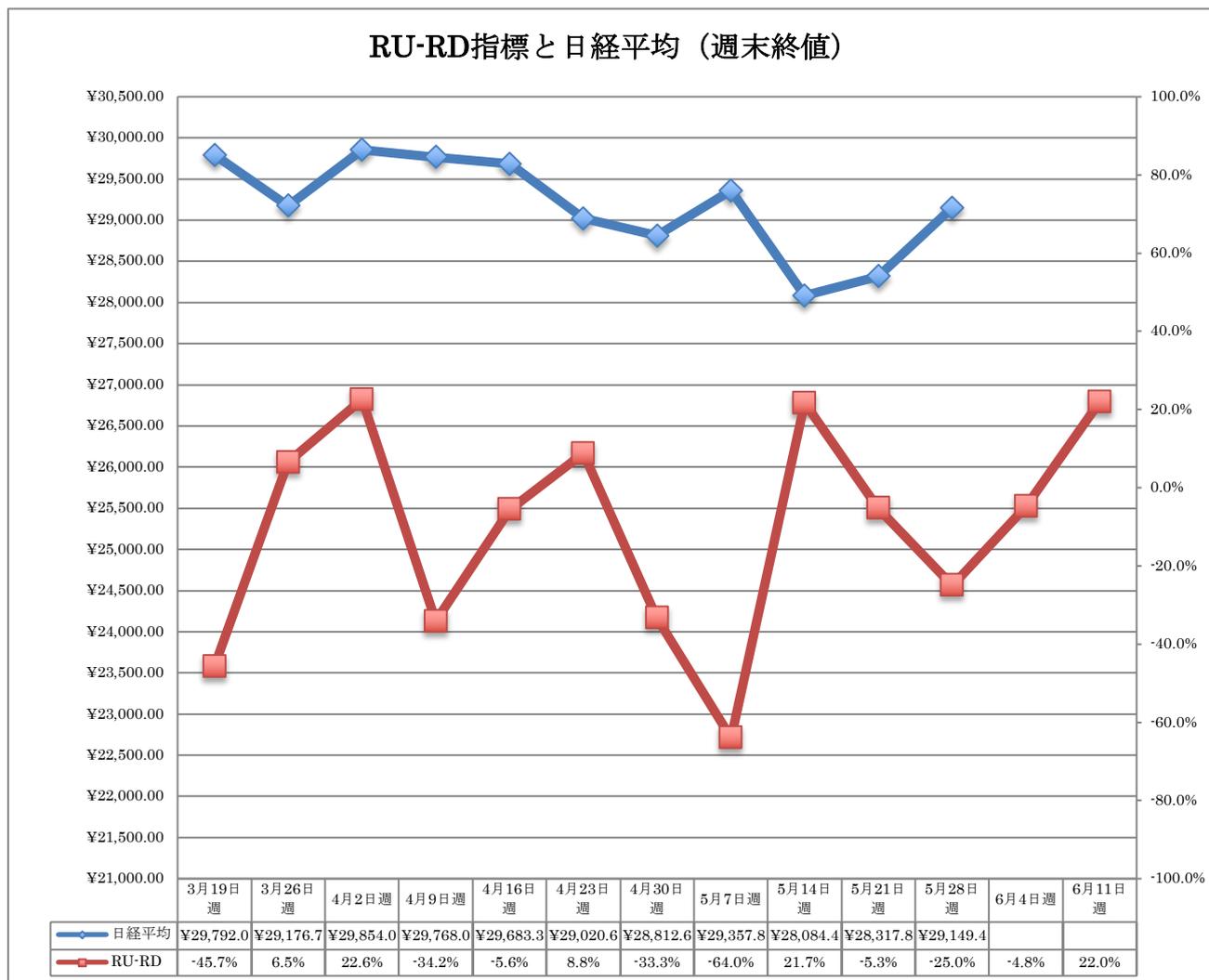
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は本来は3週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続する週となりそうです。今週(5/31~6/4)の相場を占う『RU-RD 指標』の5月21日週が-4.8%と3週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続しそうです。先週、『5月14日週が-25.0%と2週連続マイナス圏に陥っていることから本来は軟調相場ですが、ここ数週間のような「1週ズレ」が継続しているようですと今週は急落調整の週となるため注意が必要です。』と指摘しましたが、逆に、不自然な株価操縦が行われ29000円台まで急騰しました。不自然な株価操縦の目的は日経平均の「3ヶ月連続月足陰線」を避けるためと考えられます。5月スタートの日経平均が29024円でしたので、本日月曜日31日終値でこの水準を超えると陽線となりますが、1月から5月までこのパターンは戦後、1967年、1998年の2回で年後半に大きく下落するパターンとなっています。ちなみに、3週連続マイナス圏に陥ったのは、昨年10月12日週~10月26日週以来で、この3週連続マイナス圏の後、日経平均は今年2月16日30714円まで30年半振りの高値まで急上昇しました。そして、その日経平均と連動して急騰したのが何度も指摘してきたように仮想通貨の代表である「ビットコイン」でしたが、その「ビットコイン」も4月13日最高値63659ドルから5月23日安値31192ドルまで1ヶ月で-51%の大暴落となっています。これはこのレポートで何度も指摘してきたように「株式市場の先行きを暗示する大きな転換点を迎えている」こととなります。尚、来週(6/7~6/11)の相場を占う5月28日週が+22.0%と4週間振りにプラス圏に浮上していることから本来は急反発となることが予想されますが、一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%→4月16日週+21.4%→4月23日週+4.3%→4月30日週+2.9%→5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%→5月28日週+2.9%と、先週5月14日週に、昨年8月3日週以来、40週間振りにマイナス圏に陥り、「大きな相場の転換点を示唆したかたち」と指摘しましたが、3週間振りにプラス圏に一旦、浮上しています。ただ先々週、『上昇相場はここで一旦終了し、これからは株価が上昇してもリバウンドの域を出ず、むしろ株価がいつ底となるのかに注意が必要な時間帯に入ることとなります。』と指摘しましたが、同指標が再びマイナス圏に入るときにそれがより明確になるかと思われそうです。

今週は、経済指標では、国内は、31日に4月鉱工業生産、6月1日に1-3月期法人企業統計、4日に4月家計調査、一方海外で、31日に中国5月製造業PMI、6月1日に米5月ISM製造業景況指数、2日に米地区連銀経済報告(ベージュブック)、3日に米5月ADP雇用レポート、米5月ISM非製造業景況指数、4日に米5月雇用統計などが予定されています。6月1日発表の5月米ISM製造業景況指数は61.0と、前回の60.7をやや上回る見通し。また、6月4日発表の米5月雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比+66.3万人、失業率は5.9%と非農業部門雇用者数が大きく持ち直す見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、31日は米・株式市場は祝日

のため休場(メモリアルデー)ですが、1日に「OPEC プラス」閣僚級会合、4日に米・「ビットコイン 2021」会議(5日まで)などが開催され注目されます。



5月21日週	5月28日週	6月4日週	6月11日週
¥28,317.83	¥29,149.41		
-5.30%	-25.00%	-4.80%	22.00%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 29273 円～29858 円 (+2%かい離)

下値メド 27715 円～27160 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 34884 ドル～35581 ドル (+2%かい離)

下値メド 33648 ドル～32975 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 109.95 円～111.04 円 (+1%かい離)

下値メド 108.76 円～107.67 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.2297～1.2419 (+1%かい離)

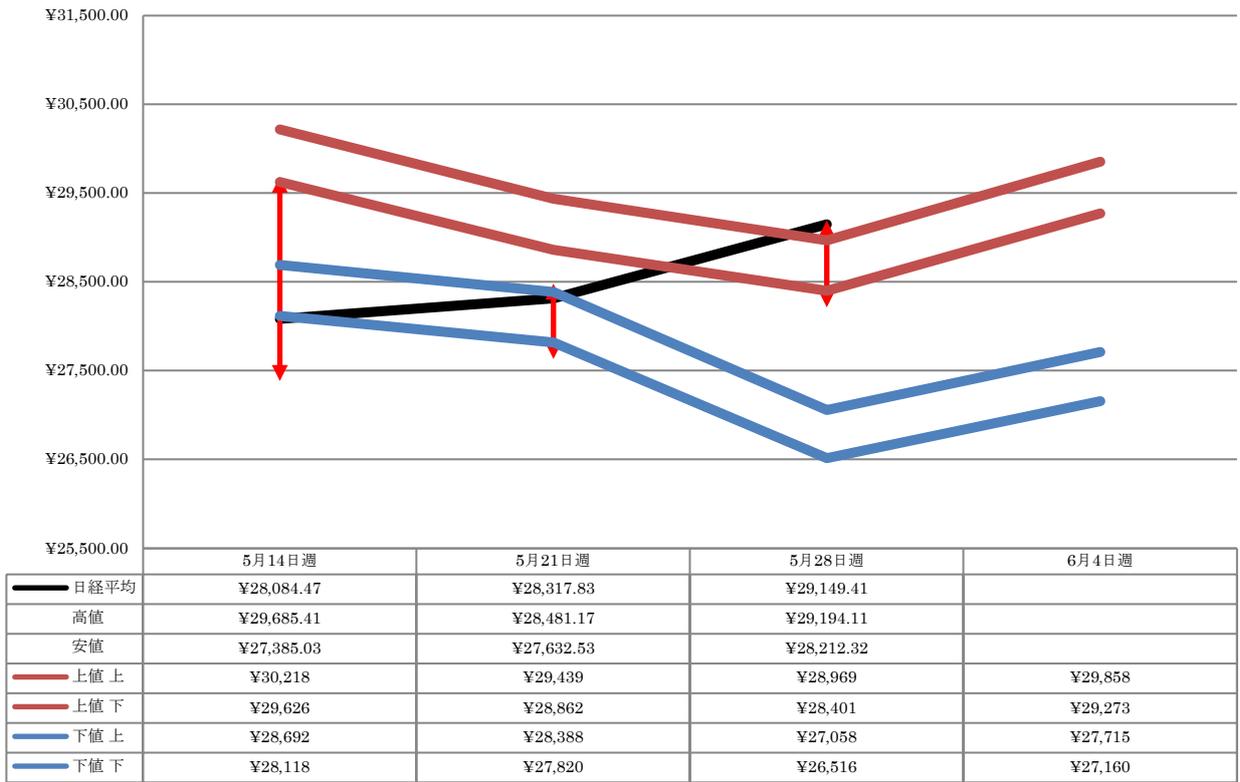
下値メド 1.2169～1.2047 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 134.23 円～135.57 円 (+1%かい離)

下値メド 133.08 円～131.74 円 (-1%かい離)

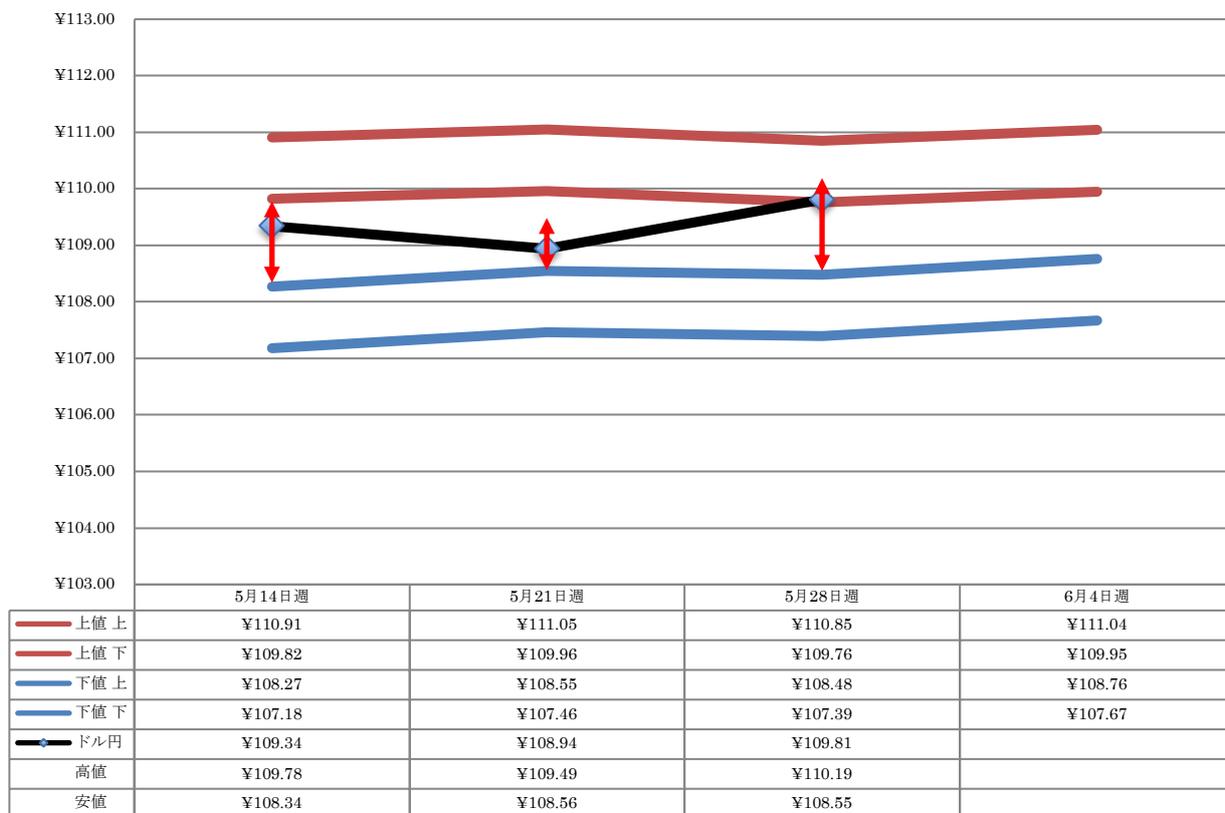
日経平均



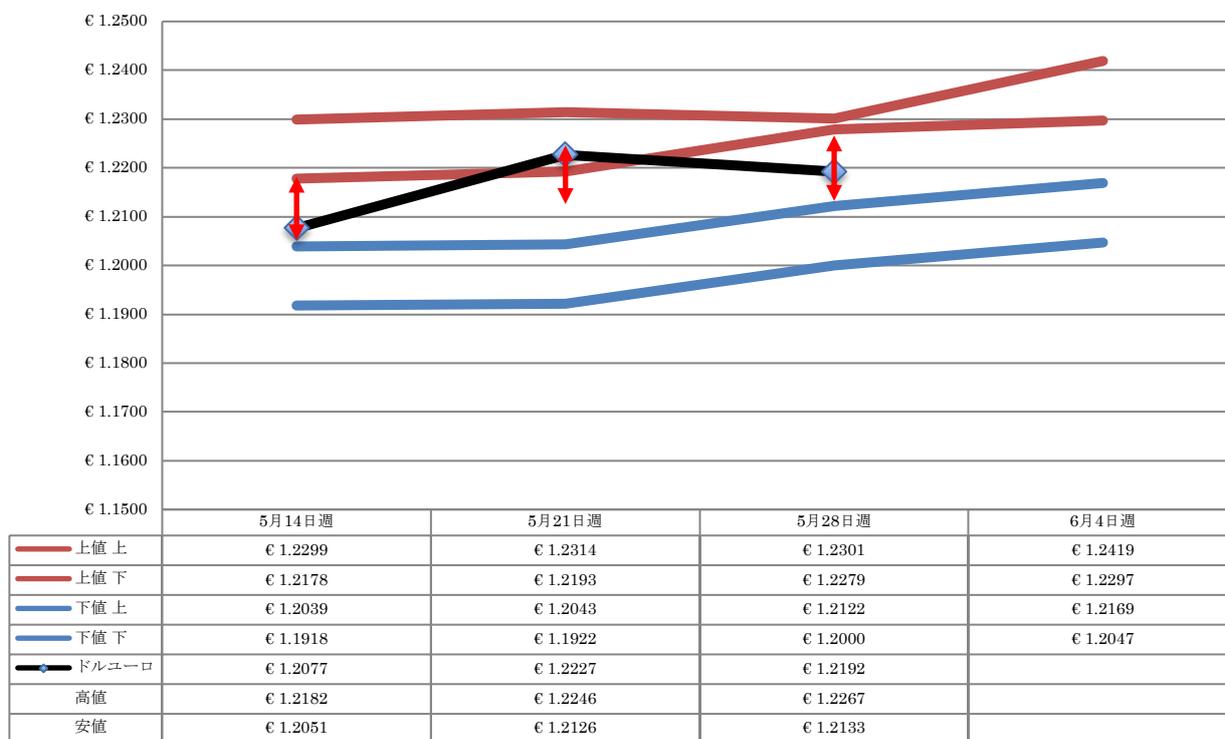
NYダウ



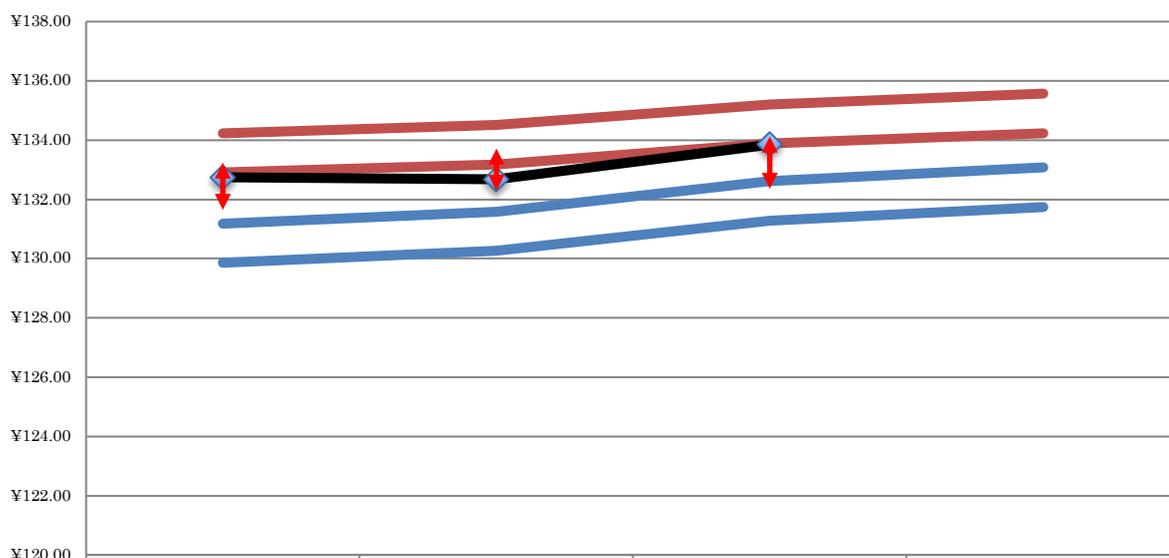
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

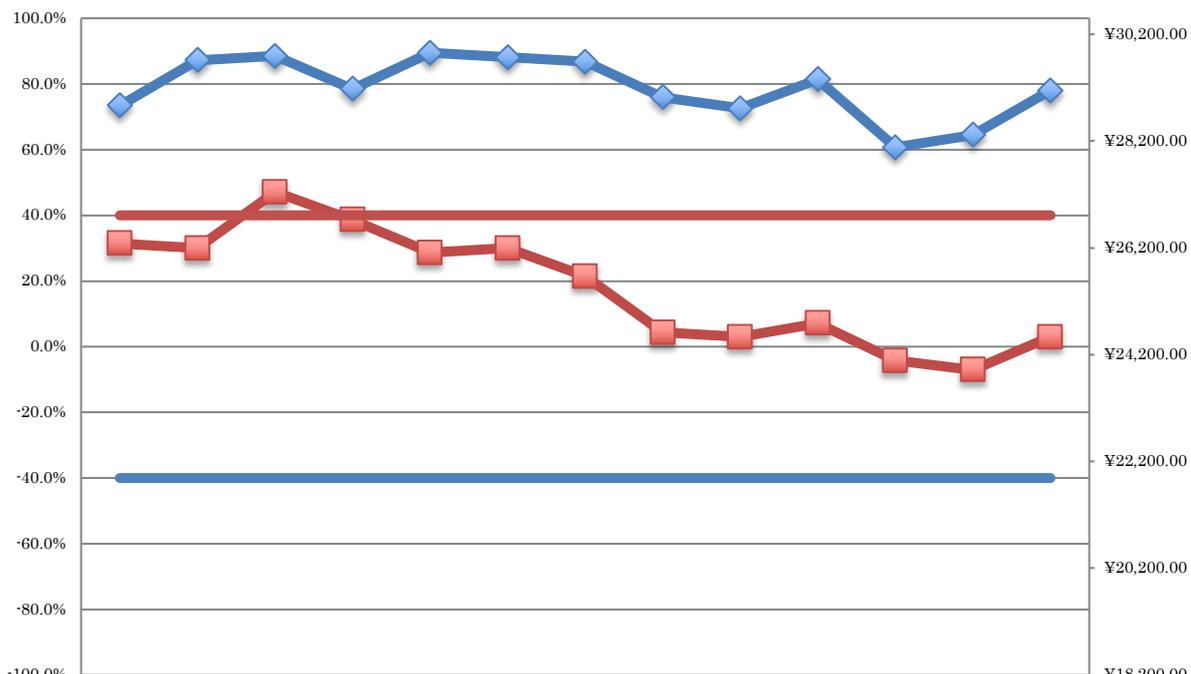


	5月14日週	5月21日週	5月28日週	6月4日週
上値上	¥134.23	¥134.51	¥135.21	¥135.57
上値下	¥132.91	¥133.18	¥133.88	¥134.23
下値上	¥131.18	¥131.58	¥132.62	¥133.08
下値下	¥129.86	¥130.26	¥131.29	¥131.74
ユーロ円	¥132.74	¥132.68	¥133.85	
高値	¥133.24	¥133.72	¥134.12	
安値	¥131.65	¥132.29	¥132.35	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、21年4月2日週+28.6%→4月9日週+30.0%→4月16日週+21.4%→4月23日週+4.3%→4月30日週+2.9%→5月7日週+7.1%→5月14日週-4.3%→5月21日週-7.1%→5月28日週+2.9%と、先週5月14日週に、昨年8月3日週以来、40週間振りにマイナス圏に陥り、「大きな相場の転換点を示唆したかたち」と指摘しましたが、3週間振りにプラス圏に一旦、浮上しています。ただ先々週、『上昇相場はここで一旦終了し、これからは株価が上昇してもリバウンドの域を出ず、むしろ株価がいつ底となるのかに注意が必要な時間帯に入るといことになります。』と指摘しましたが、同指標が再びマイナス圏に入るときにそれがより明確になるかと思われます。

日経平均とT2レーティング比率



	3月5日週	3月12日週	3月19日週	3月26日週	4月2日週	4月9日週	4月16日週	4月23日週	4月30日週	5月7日週	5月14日週	5月21日週	5月28日週
■ 銘柄比率	31.4%	30.0%	47.1%	38.6%	28.6%	30.0%	21.4%	4.3%	2.9%	7.1%	-4.3%	-7.1%	2.9%
— 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
— 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥28,864.3	¥29,717.8	¥29,792.0	¥29,176.7	¥29,854.0	¥29,768.0	¥29,683.3	¥29,020.6	¥28,812.6	¥29,357.8	¥28,084.4	¥28,317.8	¥29,149.4

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。